

\* 先日、2011年11月11日11時11分が、1が並ぶことで話題となった。10年ほど前には、2001年1月1日1時1分が同様の趣旨で話題になった記憶がある。

\* あっという間の10年だったが、実際には、非常に多くのことが起きている。この間、2001年に発足した小泉内閣が2006年まで政権を担った後は、安倍氏、福田氏、麻生氏、鳩山氏、菅氏と猫の目のように総理大臣が変わり、現野田政権に至っている。また、2001年は9.11同時多発テロが発生し、その後、2003年イラク戦争開始、10年後の2011年になってビンラディン殺害、米軍イラク撤退という事態に至っている。現在、不安定化や崩壊の危機さえさやかられるユーロは、2002年に流通が開始され、まだ10年しか経過していない。今やブロードバンドアクセスの中心的手段であるFTTHも、サービス開始後ほぼ10年である。約6,000万加入であった携帯電話加入者数は、この10年でほぼ倍増している。10年前、マスコミ4媒体広告費の数十分の1の市場規模であったインターネット広告は、2004年にラジオを抜き、2006年には雑誌に肩を並べ、2009年には新聞も抜き去り、マスコミ4媒体広告費の3分の1程度の市場に成長した (<http://www.dentsu.co.jp/news/press/2011/pdf/2011019-0223.pdf>)。こうした傾向の中で、2005年にはフジテレビとライブドアの騒動も起きた。

\* その一方で、歴史は繰り返すと思わせることも多々起きている。2011年は間違いなく、大震災と原発事故の年として長く記憶される年となるが、多くの被害を出した地震だけでも、2004年には中越地震、スマトラ沖大地震があり、後者では東日本大震災同様の巨大津波による被害を含め、10万人を超える方が亡くなっている。また、この年は耐震偽装の問題があり、地震に対する備えが注目された年でもある。2005年には、パキスタン北東部カシミール地方大地震では数万人の方が死亡、2006年ジャワ島地震でも約6,000人の方が亡くなったとされる。2007年には中越沖地

震があり、柏崎刈羽原発もこの地震でトラブルが発生し国際原子力機関 (IAEA) の調査がなされた。2008年四川省大地震で死者は数万人を超えたとされる。2010年ハイチ地震、チリ地震、2011年東日本大震災に加えてニュージーランド地震も起きていた。東日本大震災の前にほとんど忘れかけていたが、これだけの被害がそれ以前にもあったのだ。

\* そして当然、この間の電子情報通信に関わる研究開発や本会の活動内容も大きな変化を遂げている。例えば、本会の書誌情報検索 (<http://search.ieice.org/bin/search.php?lang=J>) で、「ユビキタス」を検索文字列とし、vol.としてJ84 (2001年) を指定してみると1件も該当しないが、J88 (2005年) を指定してみると19件がヒットする。その後徐々に減少し、2011年分は11月23日現在で3件が該当する。10年前には研究開発上の重要なキーワードではなかった「ユビキタス」が、その後ブームになり、徐々に下火となっているということだろう。「INGN」に至っては、J90 (2007年) まで該当がなく、翌2008年に初めて1件該当する論文が現れる。一方、これまでの研究開発の大きな方向性であった「高速」は、J84 (2001年) で123件該当し、その後徐々に減少し、2011年分は11月23日現在で61件となっている。研究開発の方向性が変わり始めているのかもしれない。「高速」に代わる研究開発の方向性になり得る可能性のある「低消費電力」は、ここ10年ほぼ10件前後で推移していることを付け加えておく。

\* なお、通信ソサイエティで検討中の本会版の新検索システムでは、上記のようなキーワードの該当文献数年別推移を簡単に調べることができるようになる方向で検討中ということで、お楽しみに。(試行版については、一部の和文論文誌を対象に <http://www.ieice.org/cs/jpn/JB/search/index.php> にて公開開始。)

(編集理事 斎藤 洋)